月刊 あなたにこの本を！ 平成21年8月号

大阪市立図書館 「あなたにこの本を！」選定委員会

大阪市立図書館が購入した新しい本の中から、図書館員のおすすめの本を紹介します。

…字が大きめ　…中高生にも　…図･写真が多い

※価格のあとの（ ）内の番号は、大阪市立図書館書誌 ID です。

1泊2日の小島旅

ジャンル ： 歴史･文化に親しむ

カベルナリア吉田　文・写真
阪急コミュニケーションズ　1680 円　(0011843797)

本書は、紀行ライターである著者が、北海道から九州までの 21 の小島をそれぞれ1泊2日の旅で巡った探訪記だ。小説『潮騒』の舞台になった三重県の神島(かみしま)や旧炭鉱の面影を色濃く残す長崎県の高島などが紹介される。各島はどれも周囲 10 キロメートル以下の小島だが、なつかしい日本の原風景をとどめ、どこか郷愁を誘う。人情味あふれる島の人たちや美味しそうな海の幸の写真もあり、身も心もいやされる「小島旅」に出かけたくなる。〔291.09〕

さわる文化への招待 －触覚でみる手学問のすすめ－

ジャンル ： 生き方･考え方に学ぶ

広瀬浩二郎　著
世界思想社　1995 円　(0011850527)

10 代で失明した著者が、その後の半生や現在の仕事の様子を記したのが本書だ。著者は様々な感覚を駆使し、また想像力を働かせ、旅行や花見も楽しむ「おもろい触生活」を送る。「触文化」の魅力を全ての人へ伝えたいと、勤務先の博物館で彫刻等に触るワークショップを開催する。豊かな「触」を追求する彼の姿はエネルギーに満ちている。また、点字や視覚障害者の歴史も紹介。表紙には点字もあり、奥深い「触」の世界への扉を開いてくれる。〔369.27〕

必死のパッチ

ジャンル ： 生き方･考え方に学ぶ

桂 雀々　著
幻冬舎　1365 円　(0011744958)

落語家の著者が、母が家を出た小学6年のその日から、中学時代に師匠枝雀(しじゃく)の落語と出会うまでをつづる。ギャンブル好き、借金まみれの父親と二人で暮らした1年。その後父も出て行き、借金取りの姿におびえつつ、近所の人々に助けられ一人暮らしを続ける。噺(はなし)を語るような軽妙さで、当時の心情や周囲の状況を細やかに描きだす。関西弁で言う「必死のパッチ」で、孤独感や生活の不安に抗い、生きていく道を探る少年の姿が胸に迫る。〔779〕

光るクラゲがノーベル賞をとった理由(わけ)
－蛍光タンパク質ＧＦＰの発見物語－

石浦章一　監修　生化学若い研究者の会　編著
日本評論社　1785 円　(0011848271)

ジャンル　：　知識･教養を深める

2008 年、下村脩博士らにノーベル化学賞が授与された。彼らの研究していた「緑色蛍光たんぱく質(ＧＦＰ)」とはどんなものか。光る生き物たちの生態の紹介、ＧＦＰの発見と開発の歴史、ＧＦＰを活用した最先端の研究という三部構成で解説する。イラストやコラムを交え、専門的な内容もやさしく読み解け、研究者の苦労と喜びにも共感できる。ＧＦＰの活用が可能にしたがんや脳の研究など、生命科学の世界も興味深く、今後の研究の可能性に夢が広がる。　〔431.5〕

ファッションから名画を読む

深井晃子　著
PHP研究所　998円　(0011809588)

ジャンル　：歴史･文化に親しむ

肖像画に描かれたエリザベス１世のドレスからのぞく、白くて襞(ひだ)のついた下着は、ぜいたくの象徴だ。本書では「モナ･リザ」の黒衣など、「装い」に着目して名画を解説している。それぞれの人物の服装には、時代背景や流行、その人物が置かれている社会階層などが表れている。幾度となく目にしてきた名画をいつもとは違う視点で鑑賞でき興味深い。名画がカラーで豊富に収録され、実際に見ながら読みすすめられるのもわかりやすい。　〔723.011〕

「エコ罪びと」の告白　－私が買ったモノはどこから来たのか？－

フレッド･ピアス　著　酒井泰介　訳
日本放送出版協会　1890 円　(0011853609)

ジャンル　：　自然･環境を考える

身の回りのものはどこから来て、廃棄後はどこへ行くのか。この疑問の答えを求め、環境ジャーナリストの著者は、世界中を旅する。著者の国へ空輸される農作物の生産地や、リサイクル資源として輸出されるゴミの最終到達地など、様々な現場に踏みこむ。丹念な取材と冷静な分析は、意外な真実を次々と浮き彫りにしていく。先進国の消費者の意識が与えている影響の大きさについて考えさせられる。エコロジーとは何かを、改めて問いかけてくる。　〔519.5〕

働くニホン　－不安の時代をどう生きるか－

日本経済新聞社　編
日本経済新聞出版社　1680円　(0011843890)

ジャンル　：　現代社会を見つめる

2007 年から約２年間連載された、働く人の生の声を伝えた新聞記事がまとめられた。後輩の成長が働く原動力だと語る技術者、育児休暇を取得する家庭重視派の男性社員、在宅社員として専門知識を活かす高齢者。それぞれの価値観に沿った働き方をしている多くの人々を紹介する。不況のなかでも働くことに真摯(しんし)に向き合う姿からは、「働きがいとは何か」をうかがい知ることができる。また、現代日本の仕事と働く形態の多様さにも改めて驚かされる。　〔366.2〕

銀座ミツバチ物語　－美味しい景観づくりのススメ－

田中淳夫　著
時事通信社出版局(発行)　時事通信社(発売)　1470円　(0011838389)

ジャンル　：　自然･環境を考える

著者は好奇心と遊び心から、銀座にあるビルの屋上で養蜂を始めた。ミツバチの受粉で草木は実を結び野鳥が戻ることを実感し、銀座を里山にしたいと、街と自然の共生を模索する。採れたハチミツで作った菓子や石けんが、地産地消の商品として銀座の店舗で好評を得るなど、その活動は実にユニークだ。企業を巻き込み、環境問題にも取り組む著者たちの熱意が伝わってくる。身近だが謎(なぞ)の多いミツバチの意外な生態も紹介されており、楽しく読める。　〔647〕